

集落連携で山本山のシカ対策は万全に

湖北農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

長浜市北西部（旧高月町、旧湖北町）に位置する磯野山から山本山に至る一帯の8集落は近年、ニホンジカによる農作物被害が増大し、被害金額も湖北地域で最大となっています。平成23年から、8集落の内、北部の3集落「熊野、西野、松尾」でシカ用防護柵（高さ2.0m）が整備されたことで、イノシシ用防護柵（高さ1.5m以下）しか整備されていなかった南部の4集落「西阿閉、山本、津里、石川」と北部の1集落「重則」でシカによる被害が拡大しました（右下図）。そこで同山系の集落が連携して取り組む獣害対策を推進しました。

【普及活動の内容】

南部4集落で獣害対策を推進するため、市とともに集落別説明会や合同検討会の開催や集落環境点検（3集落）の指導を行い、柵のかさ上げ等の早期の獣害対策を促しました。また、森林整備事務所や田園振興課とも連携し、山や緩衝帯、防護柵の維持管理についてもアドバイスをを行いました。

【普及活動の成果】



長浜市の事業を活用し、南部の4集落ともシカ対策用にワイヤー線で総延長約2.5kmに及ぶかさ上げが実施されました（写真）。また、北部の重則集落でも昨年度実施した集落環境点検結果を活用し、高さ2mのワイヤーメッシュ柵を整備されました。このように同一山系での集落連携を促すことで、より効果的な獣害対策を実践できました。

